

#### 4. 非常勤研究員 (氏名:採用期間)

川合 伸幸:1999年4月1日~2000年3月31日  
嶋田 誠:1999年4月1日~2000年3月31日  
高橋 弘之:1999年4月1日~2000年3月31日  
橋本 千絵:1999年4月1日~2000年3月31日

#### 5. 研究支援推進員 (氏名:採用期間)

伊藤 和子:1999年4月1日~2000年3月31日  
梅田 恵子:1999年4月1日~2000年3月31日  
梅田せつ子:1999年4月1日~2000年3月31日

小田 晶子:1999年4月1日~2000年3月31日  
鈴木賀寿子:1999年4月1日~2000年3月31日  
鈴木 益廣:1999年4月1日~2000年3月31日  
長谷川洋子:1999年4月1日~2000年3月31日  
松澤美津子:1999年4月1日~2000年3月31日  
渋谷 道子:1999年6月1日~2000年3月31日  
大蔵 裕子:1999年8月16日~2000年3月31日  
加藤 朱美:1999年8月16日~2000年3月31日  
平井百合子:1999年8月16日~2000年3月31日  
堀尾由紀子:1999年8月16日~2000年3月31日  
中野千枝子:1999年8月16日~2000年3月31日

## V 共同利用研究

### 1. 概要

昭和57年以来、研究課題として「計画研究」並びに「自由研究」を併置し、昭和62年度には「資料提供」を設置した。さらに平成6年度から「所外供給」を新たに設置し、これらに係る共同利用研究が実施されている。

「計画研究」とは、本研究所内推進者の企画に基づいて共同利用研究者を公募するもので、個々の「計画研究」は3~5年の期間内に終了し、まとめた成果を公表する。

「自由研究」とは「計画研究」に該当しないプロジェクトで、応募者の自由な着想と計画に基づき所内対応者の協力を得て、継続期間3年を目処に研究が実施されている。

「資料提供」とは、資料(体液、臓器、筋肉、毛皮、歯牙・骨格、排泄物等)のみを提供する共同研究として実施されている。

「所外供給」とは、本研究所以外の研究機関で行うことがより適切な研究のために、生体のサルを所外に供給するものである。

平成11年度の計画課題、応募並びに採択状況、研究会等の概略は以下のとおりである。

### (1) 計画研究

(実施予定年度:課題推進者、下線は代表者)

#### 1. 霊長類の発生・発達・加齢に関する研究

平成9年度~11年度:

林 基治・小嶋祥三・濱田 穰・中村克樹・清水慶子・大蔵 聡

霊長類の発生・発達・加齢にともなう遺伝子、細胞、器官、組織における変化を調べるとともに知覚、認知、学習、行動等個体レベルの変遷過程を明らかにし、霊長類の個体発達の特徴を考察する。

#### 2. ヒヒとマカクの比較生物学

平成9年度~11年度:

庄武孝義・川本 芳・平井啓久・相見 満・松林清明

これまでの研究で霊長類の分類群間の遺伝距離は他生物群のそれに比べて著しく小さいことが指摘されている。ここでは、ヒヒとマカクに焦点をあて両者の遺伝学的、形態学的、生理学的等の特性を検索、比較し、上述した霊長類の特殊性が何に起因しているかを探る。

#### 3. 霊長類などの寒冷適応に関する研究

平成10年度~12年度:

片山一道・川本 芳・相見 満・渡邊邦夫・毛利俊雄

霊長類などの動物種が本来の生活環境を離れ

て、得意な生活条件に拡散したとき、あるいは生活を余儀なくされたとき、いかなる適応戦略を探るか。できれば寒冷適応の問題に絞って、形態、生理、生体、行動などの変化の実態、その要因と機構を解明していく。

#### 4. 霊長類における認知と記憶の特性とその脳内機構の研究

平成10年度～12年度：

三上章允・松沢哲郎・櫻井芳雄・中村克樹・  
脇田真清

霊長類はすぐれた認知、記憶の能力を持ち、その特性と脳内機構の研究は霊長類学における重要課題の一つである。本研究課題では、心理学、神経生理学、神経化学の手法を用いてこの問題の解明に取り組むと共に、サルやチンパンジーをヒトとの比較において考察する。

#### 5. 類人猿の認知行動発達の比較研究

平成10年度～12年度：

松沢哲郎・友永雅己・小嶋祥三・濱田 稔・  
田中正之

霊長類の認知行動の発達過程を形態学的・生理学的研究と関連させ幅広い視点で研究する。特に姿勢・運動、知覚・認知・コミュニケーション、社会的知性などに焦点を当て、類人猿を特徴づける認知機能や行動の特性とその発達過程を、他の霊長類種と比較しつつ検討する。

#### 6. 生体分子の構造解析による霊長類の系統進化

平成11年度～13年度：

竹中 修・景山 節・庄武孝義

核、ミトコンドリア、Y染色体上DNAの微小変化やダイナミックな変化あるいはcDNA分析や微量タンパク質の高感度分析等生体分子の構造解析により霊長類の系統進化を明らかにする。

#### 7. サルにおける環境化学物質の蓄積と分子的生理的応答の研究

平成11年度～13年度：淺岡一雄・景山 節

内分泌攪乱物質など、特定の化学物質を対象として、各地のサルとその生育環境に広まる蓄積量を調査研究する。サルの応答を酵素、レセプター、ホルモン調節、感覚や生殖などから分子的生理的

に研究する。関連する評価測定法の開発や年齢間比較の研究も望まれる。

#### 8. 比較による霊長類の解剖学的研究

平成11年度～13年度：茂原信生・毛利俊雄

ものごとを理解したり、説明したりするためには比較はもっとも有力な手段のひとつである。霊長類の解剖学的特徴の記載においても、人体解剖用語を使用することによってすでにヒトとの比較が行われている。比較に焦点をあてて、霊長類の多様な解剖学的特徴を研究する。

#### 9. ニホンザルの食物選択と採食競合に関する研究

平成11年度～13年度：

森 明雄・加納陸至・大澤秀行・松村秀一

霊長類の食物選択には、個体の栄養学的要求、食物の利用可能度、個体間・群間の競合などが影響する。この問題について、採食戦略と生息環境や社会構造との関連、採食レポートリーや技術の伝播、実験室での選択実験や栄養分析など多様な側面から研究する。

#### 10. 霊長類の臓器特性に関する生理・生化学的アプローチ

平成11年度～13年度：

渡邊邦夫・大澤秀行・後藤俊二・鈴木 晃

野生ニホンザル各地域個体群の特徴を明らかにしながら、それぞれの将来予測をも含めて保護管理のための方策を探る。各地域個体群の動態や生息実情把握のための方法、猿害と人間による生産活動の調整技法、繁殖パラメーターや有害駆除を織り込んだ将来の動態予測、生息環境の評価などから、従来の保護管理のための議論を再考する。

## (2) 応募および採択状況

平成11年度のこれらの研究課題について、95件(141名)の応募があり、運営委員会共同利用研究専門部会(和 秀雄、丸橋珠樹、竹中 修、小嶋祥三)並びに共同利用研究実行委員会(淺岡一雄、田中正之、上原重男、川本 芳)との合同会議において採択原案を作成し、協議委員会(平成11年2月10日)の審議・決定を経て、運営委員会(平成11年3月9日)で了承された。

その結果、89件(132名)が採択された。各課題についての応募・採択状況は下記のとおりである。

課 題	応 募	採 択
計画 1	10件(16名)	7件(12名)
2	4件(4名)	2件(2名)
3	3件(3名)	2件(2名)
4	5件(9名)	4件(5名)
5	5件(7名)	3件(5名)
6	3件(3名)	3件(3名)
7	4件(4名)	4件(4名)
8	3件(6名)	2件(5名)
9	2件(2名)	2件(2名)
10	5件(6名)	4件(6名)
自 由	31件(47名)	28件(44名)
資 料	13件(22名)	21件(30名)
所 外	7件(12名)	7件(12名)

## (3) 研 究 会

平成11年度は、以下のとおり6件の研究会が採択・実施された。

1. ニホンザルの食物選択と採食競合  
平成11年7月8日  
上原重男・森 明雄・松村秀一・加納隆至・大澤秀行
2. 霊長類のストレス反応とそのメカニズム  
平成11年11月26日  
鈴木樹里・大蔵 聡・友永雅己
3. 霊長類の発生・発達・加齢に関する研究  
平成11年12月9日～10日  
林 基治・小嶋祥三・濱田 穰・中村克樹・清水慶子・大蔵 聡
4. 情動の脳内機構  
平成12年2月17日～18日  
三上章允・友永雅己・中村克樹・脇田真清
5. パン属の毛づくろい  
平成12年3月9日～10日  
西田利貞・加納隆至・上原重男
6. 第29回ホミニゼーション研究会「性の先史学」  
平成12年3月17日～18日  
片山一道・川本 芳・清水慶子・松村秀一・本郷一美